

## はみだし 氷帝公演初見評

### テニミュ☆デビューするなら絶対今だ！ 2nd 全国氷帝戦だ！

現在テニミュ公式webサイトでは『テニミュ☆デビュー 応援キャンペーン』をやっているけど、上演中の全国氷帝戦は、テニミュファンが最も初見さんに薦めない公演の一つだと思う。だって全国氷帝戦は、テニプリの数ある団体戦の中でも異例のリベンジマッチ。同じ氷帝戦なら、まず関東氷帝を観てほしくなる。

ところが！ 本作でテニミュデビューされた方から、こんな感想が発せられた。「全国氷帝戦は試合の構成がすごく良い！ 例えば、ダブルスの前にまずシングルスがある。初心者はこちらで、お～試合はこうやって表現されるのか、とテニミュ記法を学ぶ。そうした後にダブルスを観ると、なんか一段階レベルアップした感じになる。それはキャラクターの関係性アピール的にも。」(意訳)

『レベルアップ感』って発想、目から鱗。確かに『未知の演出に出会った時の感動』は、私も1stS 関東大会ぐらいまでは持っていた！ これって実は、テニミュの超重要な魅力なんじゃないかしら。

ここは試みに、テニミュデビューな気持ちで本作の試合演出を見てみよう。

まず第一試合はシングルス3。コート上の表現は、舞台中央のネットで上手下手が線対称になる、オーソドックスな横長パターン。敵味方に分かれたベンチも正面を向いていて、どうなっているのか解りやすい。青学・氷帝それぞれにソロ歌がある。必殺技や決め台詞も言ってくれる。なるほど、テニミュではこうやって試合を表現するのか！

第二試合はダブルス2。コート上の向きが斜めになり、陣地が手前と奥に分かれる。両チームのペアが、コート内のどの位置に居るか解りやすい。両校それぞれがデュエットで歌う。なるほど、ダブルスはこう表現するワケね！

加えてデータテニスで映像演出が登場。照明だけでなく映像も使うのかあ！

第三試合はシングルス2。ここへきて、試合中にコート上の向き変形が発動！ 回想シーンも試合中に発動！ しかもなんと選手は歌わずに、外野であるチームメイトがコートに乱入して歌う!? なんだこれ！ こんな表現もアリなのかッ……！

第四試合・ダブルス1からは二幕。これまでは試合開始のコールから試合が始まったのに、なんと二幕頭の群舞が途切れないまま、選手が「ドラァ！」の掛け声と共にジャンピングショットを放ち、ラリーが続くところから試合が始まる。なにそれそんなもアリなの!? カッコイイ！

そして、一幕のダブルスは『コンビのテニスの特徴』を歌っていたが、こちらのダブルスは『パートナーとの絆』をガンガン押してくる。物理的距離もなんか近い！ 一曲を青学と氷帝の選手が一緒になって歌ったりもするし、回想シーンも入るし、外野の歌も入るし……かなりハイレベルな試合になってきたぞ!?

両チームとも勝利まであと1勝、これで団体戦の勝敗が決まる第五試合・シングルス1。ついにステージからネットが消えた……！ しかし、ここまでの試合でレベルアップしてきた観客には、ネットが無くとも、選手の立ち位置が絶えずぐるぐる変化しても、ステージ上で繰り広げられているのが『テニスの試合』に見える！ 『氷の世界』だって見ることができる！

嗚呼、なんて完璧なチュートリアル！

でもチュートリアル感だけなら、たぶん全国氷帝戦に限らない。もちろん試合構成はうってつけとしか思えなくなっただけ、それに加えて本作は、他公演と比べ祝祭性がかなり少ない。例えば試合中に扮装したりしないし、氷帝名物の『氷帝コール』や『勝者は跡部』ですら関東氷帝戦と違いサラッとした演出になっている。2ndS 恒例、試合終了後の整列も無い。お祭り感もテニミュの楽しさの一つのため、ベテランファン視点で推薦するには、「盛り上がり欠けるんじゃないか……」という不安が出てしまう。しかしそのストイックさこそが、『未知の演出に出会った時の感動』を際立たせ、今までテニミュを観ようとしなかった人・特にテニミュに偏見がある人への最高の入口になるのかも。三大先生も語っていた「テニミュは実は『硬派なミュージカル』なのだということ、ストレートに伝えることが、知ってもらおうことが、ついにできるかもしれない。

次に上演されるであろう四天王寺戦は、原作からして突飛な試合が多い。全国氷帝戦って、結構現実に近いテニスをしてたんじゃないかと思えてくるほど。テニミュデビューをするなら、やっぱり今・本作がベストだ！

さあ、まだチケット購入が可能な今のうちに誰かを誘って、全国氷帝戦でテニミュデビューしてもらい、強烈な個性の四天王戦でテニミュにハマらせ、ドリライでキンブレ・カラサン芸を共に楽しんじゃおうではないか！

テニミュって、楽しいよ！（瀬川チサコ 2013.08.11.）